



# Otaru Wellness Town

知られるサービス  
が知りたい  
more >

子どもの成長が気になっ  
ています。気軽に相談  
できる場所がほしい!  
more >



2024.8

## 活動レポートダイジェスト版

# **小樽くらしたい。**

# **小樽共生。**

# **小樽共創。**

小樽築港エリアでは、健康寿命の延伸や  
少子高齢化等の地域課題を解決するため、  
北海道済生会と（株）小樽ベイシティ開発  
（ウイングベイ小樽）、小樽市、多数の関  
係者と連携しながら、「ウェルネス」のま  
ちづくり推進によるブランド価値の創出に  
向けた事業計画を策定・推進しています。  
この計画により、学び、繋がり、社会参加  
の場などこれまでにない価値を創出し、他  
地域と違った「ウェルネス」のまちづくり  
として地域課題解決を目指す先進的なモデル  
となることが期待されます。



# 1. 社会的背景とまちづくりの方向性

## # 社会的問題の根底に着目

日本の社会問題＝人口減少や少子高齢化問題

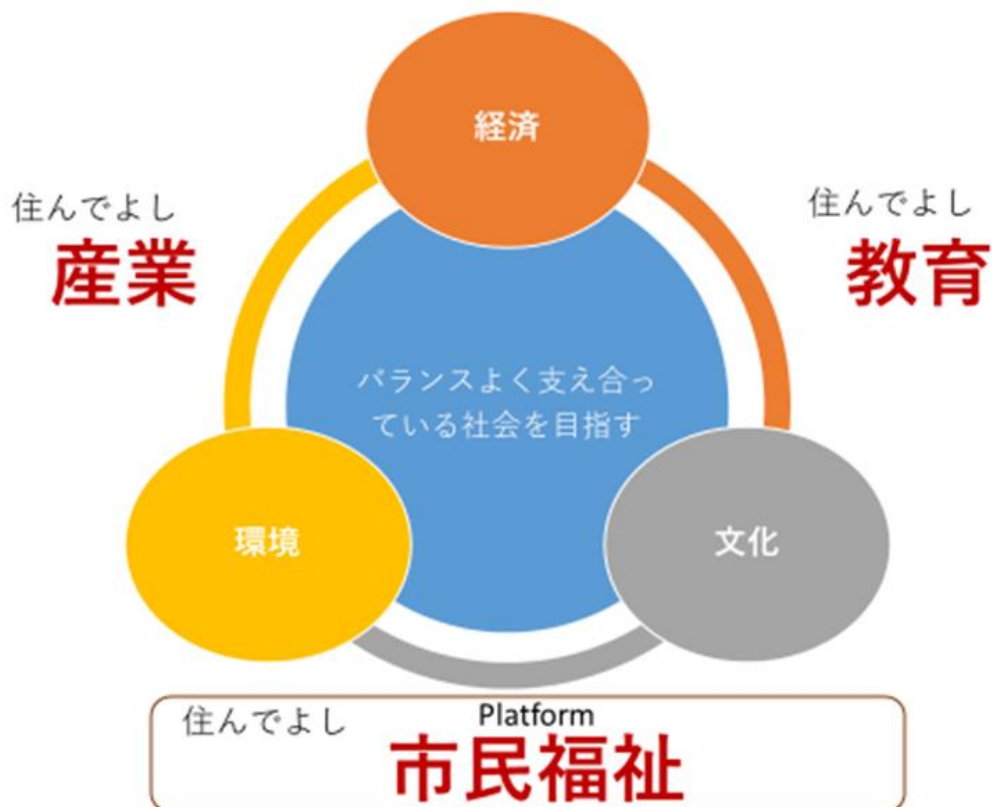
- i. 社会保障や経済への影響
- ii. 地域生活への影響
- iii. 住民の将来不安の増大

小樽ではこうした問題が先行し、既に様々な問題が生じている  
＝将来日本の縮図

## # 将来日本の縮図小樽で課題解決＝日本の課題解決へ

- i. 社会保障や経済への影響 ⇒ 新たなビジネスや産業の創出
- ii. 地域生活への影響 ⇒ 住民生活を重視したまちづくり
- iii. 住民の将来不安の増大 ⇒ 小樽の底力と未来を築く価値創造

地域住民の暮らしと観光都市を両立させた  
持続可能なまちづくりが必要



## 2. ウェルネスタウンでの課題解決事業

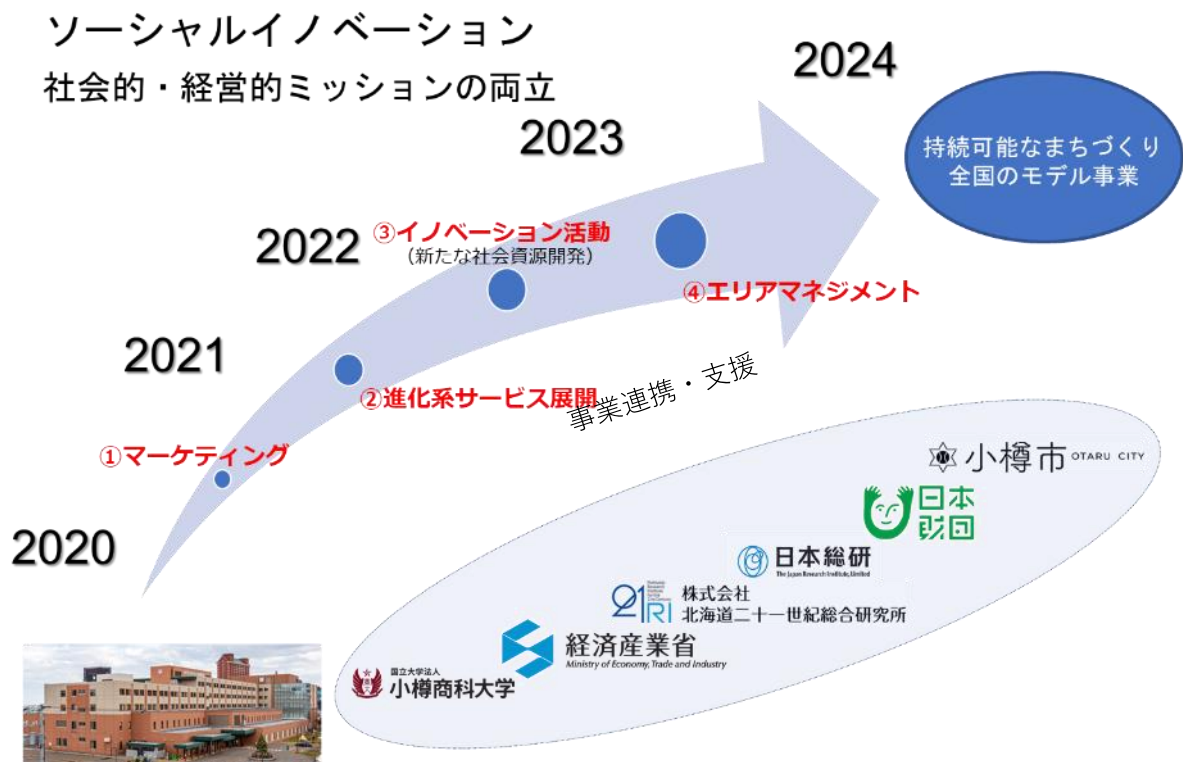
2020年 ウェルネスタウン構築に関する協定締結（（株）小樽ベイシティ開発・北海道済生会）

2021年 ウイングベイ小樽に済生会ビレッジ開設



日本社会の課題解決に向けたイノベーション基地としての機能

### ウェルネスタウン事業戦略概念図



## # 済生会地域ケアセンター

⇒2021年 誰もがノンストップで支援を受けられる総合相談支援事業所を開設



オレンジかふえを運営



## # 発達支援事業所 きっずてらす

⇒2021年 小・中学生の10人に1人が発達に問題を抱えている。急激な支援ニーズの高まりへの対応のため、きっずてらすを開設



⇒2022年 Duoを開設し医療的ケア児の受入れ開始



⇒2023年 Diveを開設し職業トレーニングプログラム開始



⇒2023年 デジタルアート×生業づくりPJ実施  
(日本総研事業)



## ⇒2024年 保育園留学事業

(小樽市・(株)キッチハイクと連携)

保育園留学®とは、地域と子育て家族をつなぎ、約2週間家族で地域に滞在できる暮らし体験。お子様には、幼少期に大自然に触れ、心身ともに健やかに育つ環境を、ご両親は働きながら多様な選択肢を、さらに過疎地域に、子育て家族を招き、地域経済に貢献をもたらすサービス。小樽では、全国初となる発達支援に特化した保育園留学を開始した。



## ⇒2024年 小樽フォント活動

きっずてらすに通う子供たちが描いたフォントやパターンを世界中に届けるソーシャルプロジェクト。小樽の地域プロモーションにも活用。



## # 就労継続支援B型事業所 ぷりもぱっそ

⇒2021年 低賃金・はたらく魅力に欠けるこれまでの制度事業。一人当たり月平均作業工賃全国平均額16,000円を2倍以上にあたる36,000円を実現、さらに一般就労への移行を目指して開設。

関連施設のクリーニングや清掃受託、手芸品製作から事業開始



⇒2022年 ウイングベイ小樽での軽作業開始



⇒2023年 ウイングベイ小樽に社会貢献型ショップ、ぷりもShopを開設



## ⇒2024年 ウイングベイ小樽に食品加工場・フードバンク倉庫 ぷりもクックルーム開設

ぷりもクックルームは、済生会農園そらしードで収穫した野菜等を食材とした調理・加工品やオリジナル菓子の製造販売を行う。この作業過程に障がいや社会で働くことに困難を抱える方等に関わって頂くことで、就労の支援につなげる。また、済生会ビレッジホールで行う地域食堂の厨房として、フードバンクの倉庫を構え、地域の支援物流の拠点として機能する。



## # ウェルネスリハビリサービス ライヴリー

⇒2023年 最先端の脳・運動機能活性化理論「ムーブメント・プラクティス」と買い物動作をリハビリプログラムに組み込んだ「ショッピングリハ」を取り入れた進化系のデイサービスを開設。



## # 済生会農園 そらし〜ど

⇒2023年 塩谷地区の老人介護保険施設はまなすの裏庭を拠点に済生会小樽病院とみどりの里の敷地内3か所に農園を開園した。ブルーベリーや野菜などを栽培し、農作物は企業連携して売り出す過程で地域活性化や交流促進、地域住民や障がい者等の就労場所として提供し、地域住民が生き生きと暮らせる小樽を作る礎にする。



⇒2024年 市民交流・収穫物の販売開始



## # 済生会フードバンク

⇒2021年 生活困窮者への支援や地域食堂などの活動支援、食品ロス対策として活動開始。



⇒2023年 小樽駅マーケットと連携開始



⇒2024年 イオン小樽店と連携開始



全国初となるフードバンク自販機設置



## # 市民の健康活動支援事業

⇒2021年 小樽市民の健康寿命は全国・全道平均と比較して短い、またがん検診の受診率も低いことから、市民の生活習慣における行動変容を促す活動を開始。

⇒2021年 ウェルネスチャレンジ（ウォーキング・健康チャレンジ+10・キッズチャレンジ）開始

ちよこっと券売機設置



無料健康相談開始



⇒2021年 ウイングベイウォーキング開始

⇒2022年 野球健診開催



## # ソーシャルファーム ワークスクエア

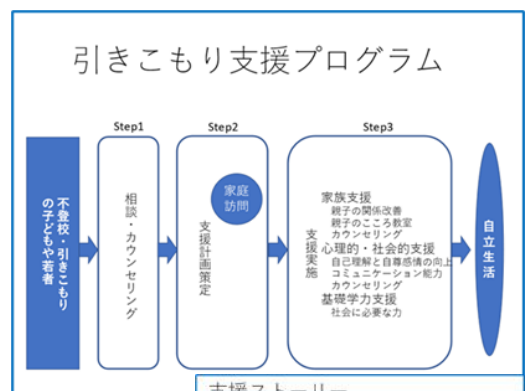
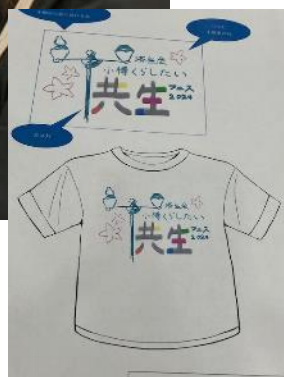
⇒2024年 就労に困難を抱えている人を、必要な支援を行いながら他の従業員とともに一般雇用し、自立的な経済活動を行う社会的企業モデルを構築する。

ワークスクエアを設置し、要支援者を受入れ。個性を生かした、やりがいのある仕事づくり開始。

不登校・引きこもり支援プログラム構築



要支援者が制作したイベントロゴ



## # 自主的な公益活動支援事業

⇒2022年 市民の自主的な公益的活動の支援と市民の潜在能力の発揮を促し、社会資源の活用等を進める。

ボランティア活動の支援開始



介護予防教室活動の支援開始



## # まちづくり活動支援事業

⇒2021年 高齢化と過疎化が進む地域住民の生活利便性向上に取り組むとともに、住民が行うまちづくり活動や地域の魅力発信活動を支援する。

住民の健康と福祉向上の象徴として「なでしこロード」設置に協力



⇒2022年 生活不便地域の塩谷・桃内地域に無料送迎バスを運行



⇒2022年 地域の魅力、歴史と文化の伝承活動を支援



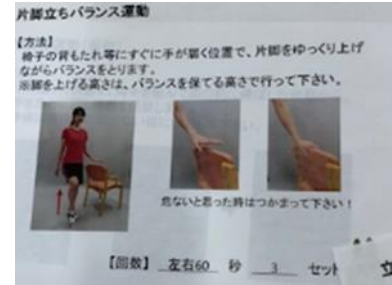
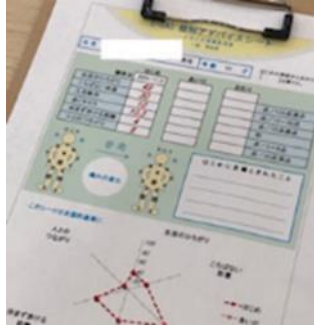
子どもたちが演じた歴史伝承芝居を紙芝居化



# # 実証研究事業

⇒2021年 国や地域の課題解決に向けた様々な実証研究を行い、最先端サービスの開発と実装化を行う。

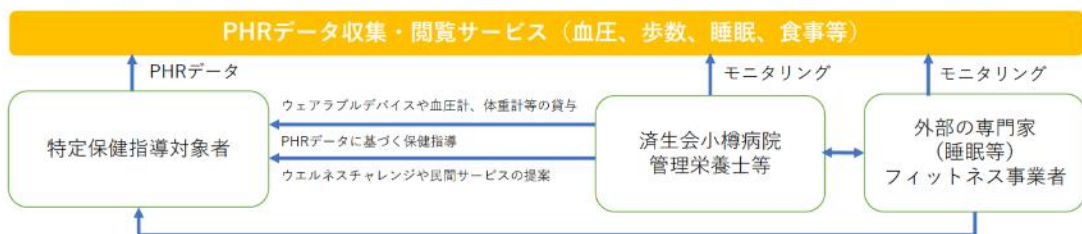
厚生労働省 北海道のリハビリ専門職を活かした高齢者の介護予防に係る超瀬研究 (喜茂別町×済生会小樽病院)



経済産業省 小樽築港エリアをモデル地域として、商業施設と医療機関等の連携による新たなヘルスケア産業の創出と地域・社会の課題解決

## ④ プロトタイプ化・実証案 ア 特定保健事業の介入効果を高めるPHRの活用

- 小樽市においては、特定保健指導実施率や継続率、介入効果(=行動変容)をいかに高めるかが課題
- 受託医療機関である済生会小樽病院において、PHRを活用した保健指導を実施し、継続率や介入効果について検証。
- PHRデータに基づく医療専門職の保健指導やウェルネスチャレンジ等ウイングベイ小樽の利用を促進する取組と連携。
- 対象者の希望に応じて、睡眠アドバイザーによる健康相談、トレーナーによる運動指導(オンラインフィットネス)等も実施(有料)
- 実施日の調整はスケジュール調整ソフトを活用したりオンラインで保健指導するなど、業務の効率化・円滑化を考慮



⇒2023年 経済産業省 商業施設の強み(多くのタッチポイントや広大な空間、様々なテナントを有するなど)とナッジ理論を活用し、「健康になれる商業施設」に係る実証研究

**「自然と健康になれる社会」づくりに向けた実証**

自然と健康になれる社会へ! **日常生活に係る場面・場所、ナッジ手法の活用** × **ヘルスケア** = **無関心層の健康増進**

出典: 日本総合研究所IP (本事業公報資料の複製版より抜粋)

<b>日常生活に係る場面・場所</b>	大型商業施設「ウイングベイ小樽」
<b>ナッジ手法の活用</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウォーキングを促進する施設内の仕掛け</li> <li>専用LINE公式アカウント等でのプロモーション</li> <li>産業保健師の個別相談による介入</li> <li>企業間競争イベント(社会的規範)</li> </ul>
<b>ヘルスケア</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道済生会(医療機関)の参画による住民への安心感の訴求</li> <li>テナントの協力により「敷居の低い」「わくわく」コンテンツ開発</li> <li>ウェルネスをコンセプトにし「健康づくり」の押し売りを排除</li> </ul>
<b>無関心層の健康増進</b>	「健康づくり。わかっちゃいるけどできない層」をターゲットに「やってみよう」を促進できる環境づくり

医療機関、商業施設(テナント含む)が「ヘルスケア」に投資し、ヘルスケア需要を創出することによってビジネスとして成立するモデル構築

## アプリ「ウェルネス知恵袋」開設

ナッジを利かせたウォーキング促進の仕掛け



健診受診へ行動変容を促すイベント



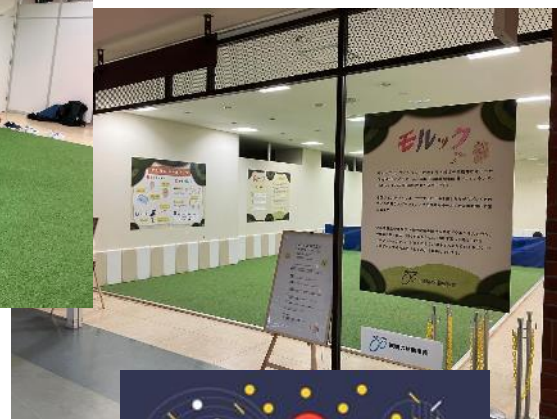
ヘルシーメニュー・食品の利用促進に向けた実証イベント



⇒2023年 JKA 「商業施設を拠点とした子どもの居場所づくり×ソーシャルインクルージョン推進に係る実証実験

モルック場開設

年齢や障害の有無に関係なく、誰でも楽しめるユニバーサルスポーツ場



3D制作を学べるbrender講習会



## # ウェルネス・共生イベント事業

⇒2022年 市民の健康づくりや、小樽における共生の実現を目指すイベント、地域の未来づくりにつなげる道内外のネットワークを活用した共創イベントの開催。

済生会ウェルネスフェア withウイングベイ小樽 2,000人参加



⇒2023年 済生会ウェルネスフェアwithウイングベイ小樽 3,500人参加



⇒2023年 パパ・ママ応援イベント みんなのウェルネスふえすたin小樽 350人参加



⇒2024年 パパ・ママ応援イベント みんなのウェルネスふえすたin小樽 400人参加



⇒2023年 小樽ウェルネスタウン発 防災ラボ 250人参加



⇒2024年 小樽ウェルネスタウン発 防災ラボ 500人参加



⇒2023年 小樽くらしたい共創フェス 2023



未来づくり講演



小樽すこやかな暮らし視察ツアー



⇒2024年 小樽みらい共生祭り 2024

みらい共生マルシェ



## # 連携・協定事業

⇒2023年 小樽市と「地域共生社会の実現に関する包括連携協定」締結



⇒2024年 小樽市多機関協働推進事業受託

312 ⇒2024年 学校法人北斗文化学園と「地域共生社会の実現に関する包括連携協定」締結



## # 受賞等

⇒2022年 済生会令和3年度令和賞

全国済生会の病院や社会福祉施設等の中から、利用者へのサービス向上や地域貢献により法人の 名誉向上に寄与した施設に贈られる賞

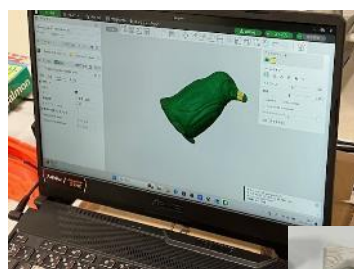


# # 今後の事業計画

⇒2024年 JKA補助事業 「商業施設×地域共創型」子ども子育て・地域共生サポート事業  
～商業施設を拠点とした子どもの居場所づくり×子育て期の就労サポート機能に  
関する実証研究～

⇒2024年 小樽くらしたい共生フェスイベント開催

⇒2024年 ソーシャルエコノミー商品の開発



⇒2024年 R6済生会ソーシャルインクルージョン・ソーシャルファーム推進事業  
済生会コンソーシアムでSIまちづくり活動

～ソーシャルファームモデルの構築とSIまちづくり活動の横展開～

小樽ウェルネスタウンモデルの横展開（北上・高岡・呉・今治）

先駆的事业開発	先端技術活用 人ヒト社会を超えた共生
新規性活動・事業	SF/SI新規事業開発
外部資金の調達と活用	国・財団法人・企業 Crowdfunding 等
済生会横展開事業	モデル事業の横展開
コンソーシアム活動	会議・視察・研修

R5 横展開した  
済生会高岡病院×イオンモール高岡



⇒2024年 日本財団補助事業「大型商業施設を活用した地域コミュニティの形成」

～ウイングベイ小樽に、学童保育又は一時預かり機能を整備しつつ、年齢や障害の有無に関係なく、支える側や支えられる側も含め、全ての市民が集まり交流しうる、多世代・多様性型のコミュニティエリアを整備する～

ひとり親家庭や子育て世代の就労エリア



地域共生スポーツエリア



医療設備を備えた共生型コミュニティーエリア



⇒2025年 AIなどを最先端技術を活用した公益事業開発

# # 外部資金の確保と地域への投資

⇒2020年～2024年（見込額含む）

1億2,562万円

元気な小樽を、もう一度ここから。病院発の農園づくりにご支援を

北海道済生会



みんなが生き生きと暮らせる小樽を再び。  
病院による農園づくり、はじまります。



寄付総額 **13,244,420**円 目標金額 11,000,000円

寄付者 募集終了日  
304人 2023年7月31日

<https://readyfor.jp/projects/...> コピー

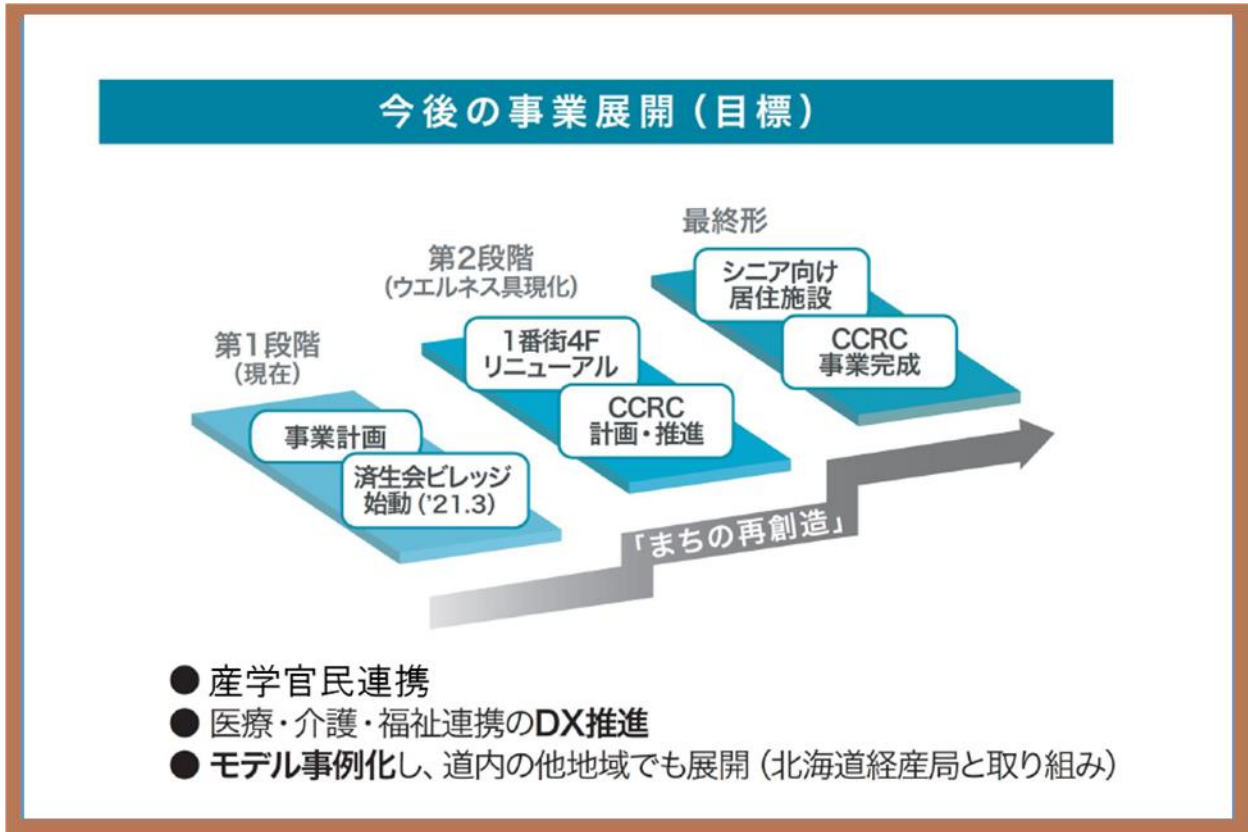
専用URLを使うと、あなたのシェアによってこのプロジェクトに何人訪れているかを確認できます

Facebook X LINE note

(千円)

国・行政からの研究費や補助金	24,100
公益法人等からの補助金	54,062
企業からの寄付	1,572
クラウドファンディング	13,244
済生会事業推進補助	32,649

最終形へ加速



### 3. SDGs指標



#### 事業戦略で貢献する目標 2020～2023年

虐待児童措置受入件数	17		16 平和と公正をすべての人に	69,680	無料低額診療件数
社会的に重要な施設への電気供給検討 (OBCエネルギーセンターから済生会小樽病院へ)			13 気候変動に具体的な対策を	273	生活物資支援件数
フードバンク フードドライブ件数	3,632		12 つくる責任 つかう責任	1,432	生活困窮相談支援件数
包括支援総合相談延件数	5,139		11 住み続けられるまちづくりを	10,902	フードバンク バックパック量(Kg)
介護予防教室支援件数	35		10 人や国の不平等をなくそう	1,902	ウエルネスチャレンジ参加者数
オレンジかぶえ参加人数	1,511		3 すべての人に健康と福祉を	284	無料健康相談件数
障がい者アート等出展件数	213		4 質の高い教育をみんなに	7,188	児童・学童発達支援件数
障害者雇用率 (2023実績)	2.7		5 ジェンダー平等を実現しよう	238	保育所等訪問指導件数
実証事業等参加件数	8		9 産業と技術革新の基盤をつくろう	1.0(男性) 100.0(女性)	育児休暇取得率 (2022実績)
			8 働きがいも経済成長も	84	短時間勤務制度利用者数
				172	保育補助制度活用者数
				1,598	就労支援利用者数
				742	健康経営従業員数 (2023実績)



22の行政、団体や企業

人と街  
心をつなぐ  
北海道済生会  
次の100年へ

100<sup>th</sup>  
*Hokkaido Saiseikai*

発行 社会福祉法人<sup>恩賜財団</sup>済生会支部  
北海道済生会